

比類なき経験と充実の指導 がん緩和ケアのキャリアを加速させる

診療科としての人材育成のポイント

緩和ケアは、あらゆる分野において基本的医療として求められ、がん診療においては診断時から、がん治療期、緩和・療養期とあらゆる時期に必要とされます。また、がん以外の疾患においても必要とされる医療で、広く普及してきました。しかしながら、緩和ケアの専門家はまだまだ少なく、基礎・臨床研究も発展途上です。

国立がん研究センター中央病院緩和医療科では、がん診療を中心としたハイスキルの緩和ケア専門家を育成することを目指し、日々の臨床、研究、教育にスタッフ一同取り組んでいます。当院では早期からの緩和ケアを実践する豊富なチーム介入実績とチーム医療を担う各領域の専門家とのコラボレーション研修を経験でき、ほかのどの施設にもない緩和ケア臨床経験と指導医の丁寧な指導を受けることができます。また、当院にはない緩和ケア病棟や在宅医療、非がん緩和ケアを院外研修として研修できる体制としております。緩和ケア専門医、認定医を目指す方はもちろん、これから緩和ケアを専門にしていきたい方、緩和ケアのスキルアップを求める方も歓迎いたします。



当科所属の先生方からのメッセージ



池上 貴子先生 (55期レジデント)

当院の緩和医療科の魅力はなんといっても圧倒的な症例数です。私は緩和ケアチームで少し経験をした上で、スキルアップのため研修に来させて頂きましたが、短期間で何年分の経験を積めることを実感しています。AYA世代や希少がん、治療なども幅広く経験できます。症状緩和に難渋する症例も担当することがありますが、スタッフの先生方をはじめ、レジデントや緩和ケアチームの多職種みんなが患者さんのために真摯に向き合ってくれるため、相談もしやすく大変勉強になります。希望があれば緩和ケア病棟や在宅診療の研修にも行くことができますし、充実した教育体制が整っており、専門的緩和ケアを学んだ経験があってもなくても、安心して研修が受けられる環境です。臨床以外にも研究や論文作成、海外学会での発表も丁寧に指導をして頂けるので、緩和ケアだけでなく医者としてのスキルアップも可能です。スタッフ、レジデントの専門領域も多岐に渡り、意見交換しやすい雰囲気も魅力の一つです！少しでも興味があれば、お気軽に見学に来てくださると嬉しいです。お待ちしております！



松原 奈穂先生 (55期レジデント)

私は初期研修を終えて5年間呼吸器内科医として働いていましたが、何か新しいことに踏み出したいと元々興味があった緩和医療での研修を考えました。臨床経験を積むための症例数や、研究の経験がなかったので指導を受けられる環境であることを重視して当施設を選びました。実際に研修を始めてみて、想像以上の多彩な症例（小児や若年層、希少がん、苦悩の内容も身体症状から倫理的問題まで様々！）や先生方のご指導、レジデントの仲間との支え合いで忙しくも楽しい日々を送っています。ライフワークバランスも取りやすい環境です。子育て中の先輩も多くおられますが、論文執筆や学会発表もそれぞれのペースで着実にこなされています。スタッフ、レジデント共に出身専門科は多岐にわたります。内外科問わず緩和医療科に興味があればぜひ見学にいらしてください！

当科レジデントの論文 (2023年度)

- Kadono T, Ishiki H, Yokomichi N, Ito T, Maeda I, Hatano Y, Miura T, Hamano J, Yamaguchi T, Ishikawa A, Suzuki Y, Arakawa S, Amano K, Satomi E, Mori M. Malignancy-related ascites in palliative care units: prognostic factor analysis. *BMJ Support Palliat Care*. 2023 Apr 20;13(e3):e1292-9.
- Takeda Y, Ishiki H, Oyamada S, Otani H, Maeda I, Yamaguchi T, Hamano J, Mori M, Morita T. Symptoms and Prognoses of Patients With Breast Cancer and Malignant Wounds in Palliative Care Units: The Multicenter, Observational EASED Study. *Am J Hosp Palliat Care*. 2023 Dec 6;10499091231219855.
- Sanomachi T, Ishiki H. Classifying and grading liposarcoma by CT. *Lancet Oncol*. 2024 Feb;25(2):e53.
- Takamizawa, S., Ishiki, H., Oyamada, S., Takeda, Y., Kiuchi, D., Amano, K., Matsuda, Y., Yokomichi, N., Kohara, H., Suzuki, K., Satomi, E. & Mori, M. Psychological symptom burden associated with malignant wounds: Secondary analysis of a prospective cohort study. *Palliat. Support. Care* 22, 396–403 (2024).
- Toda, Y., Ishiki, H., Machida, T., Kawasaki, N. & Kobayashi, E. Pain, Analgesic Use, and Patient Satisfaction With Spinal Versus General Anesthesia for Hip Fracture Surgery. *Ann. Intern. Med.* 176, eL220366 (2023).
- 石川 彩夏, 荒川 さやか, 石木 寛人, 天野 晃滋, 鈴木 由華, 池長 奈美, 山本 駿, 柏原 大朗, 吉田 哲彦, 里見 絵理子. 緩和的放射線治療とメサドンによるがん疼痛緩和後にオピオイド中止により離脱症状を呈した1例. 2023年18巻3号 p.159-163
- 松原奈穂 & 石木寛人. 特集●意外と知らない外用薬の知識 耳鼻咽喉科疾患に対する外用薬の効果的な使用法. *がん性疼痛*. *JOHNS* 40, 93–96 (2024).
- 阿部 晃子 & 石木 寛人. 薬剤性離体外路症状 / ミオクローヌス. *緩和ケア* 33, 320–326 (2023).
- 石川彩夏 & 石木寛人. メサドンを使いこなして難治性疼痛を緩和しよう. *緩和ケア* 33 suppl, 13–18 (2023).

研修後の進路

	2021年度	2022年度	2023年度
国立がん研究センター（医員、研究員、Physician scientist等）	0	0	0
大学病院	1	1	0
全国のがんセンター・全がん協加盟施設	0	0	0
市中病院	1	0	0
企業、海外留学等	0	1	0
その他	0	0	0
合計 ※研修継続者、専攻医は除く	2	2	0

■ プログラム

§ 推奨するコース

● レジデント2年コース

研修目的・内容	がん緩和ケア全般の研修を行い、緩和医療専門医または緩和医療認定医を取得する。臨床研究に取り組み、研究結果の国際学会での発表、論文執筆を行う。臨床研究などを企画、立案、実践し、論文化、国際学会発表を行う。J-SUPPORT、JORTC など緩和支援領域臨床試験を経験する。他科研修、院外研修（緩和ケア病棟、在宅医療等）も可能。
研修期間・ローテーション	1年目：緩和医療科に6ヶ月以上在籍し診療、臨床研究等を開始する。残りの期間は緩和医療科での継続研修、CCM 勤務、希望者は他科研修を行う。 2年目：緩和医療科・関連診療科（精神腫瘍科、放射線診断科、放射線治療科等）での研修に加え、希望に応じて緩和ケア病棟、在宅医療等、他院での交流研修を行う。

● がん専門修練医コース

研修目的・内容	がん緩和ケアに特化した診療、臨床研究、Translational research (TR) に取り組む。臨床研究などを企画、立案、実践し、論文化、国際学会発表を行う。J-SUPPORT、JORTC など緩和支援領域臨床試験を経験する。希望に応じて、緩和ケア病棟研修（国立がん研究センター東病院、東京共済病院、聖路加国際病院等）、在宅医療研修（わたクリニック等）、研究所での基礎研究に関する研修も可能。
研修期間・ローテーション	1年目：緩和医療科へ在籍し診療、臨床研究、TR 等を開始する。1年目在籍中に研究結果の国際学会での発表、論文執筆を行う。 2年目：臨床研究、TR を主体とした修練を継続する。希望に応じて院外研修、研究所での研修を行う。

§ 副次的なコース

● レジデント3年コース

研修目的・内容	がん緩和ケアおよび臨床腫瘍学を中心とした研修を行い、緩和医療専門医を取得する。臨床研究に取り組み、研究結果の国際学会での発表、論文執筆を行う。臨床研究などを企画、立案、実践し、論文化、国際学会発表を行う。J-SUPPORT、JORTC など緩和支援領域臨床試験を経験する。他科研修、院外研修（緩和ケア病棟、在宅医療等）も可能。
研修期間・ローテーション	1年目：緩和医療科に6ヶ月以上在籍し診療、臨床研究等を開始する。残りの期間は緩和医療科での継続研修、CCM 勤務、希望者は他科研修を行う。 2年目：緩和医療科・関連診療科（精神腫瘍科、放射線診断科、放射線治療科等）での研修に加え、希望に応じて緩和ケア病棟、在宅医療等、他院での交流研修を行う。 3年目：緩和医療科に在籍し、診療、臨床研究を行う。

● 連携大学院コース

研修目的・内容	がん緩和ケアを中心とした研修を行い、専門医の取得と学位取得を目指した研究に取り組む。臨床研究に取り組み、研究結果の国際学会での発表、論文執筆を行う。臨床研究などを企画、立案、実践し、論文化、国際学会発表を行う。J-SUPPORT、JORTC など緩和支援領域臨床試験を経験する。他科研修、院外研修（緩和ケア病棟、在宅医療等）も可能。
研修期間・ローテーション	1年目：緩和医療科に6ヶ月以上在籍し診療、臨床研究等を開始する。残りの期間は緩和医療科での継続研修、CCM 勤務、希望者は他科研修を行う。 2年目：専門医取得のための研修（希望者は緩和ケア病棟や在宅医療などの院外研修）と連携大学院を継続する。 3-4年目：がん専門修練医に準ずる研修を行う。連携大学院を継続し、学位論文を完成させる。 ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う。

§ その他のコース

● レジデント短期コース

研修目的・内容	がん緩和ケアを中心とした研修を行う。
研修期間・ローテーション	6ヶ月 - 1年6ヶ月の研修。緩和医療科研修（他科ローテーションも相談可）。※6ヶ月を超える場合はCCM 研修を行う。

最高峰の施設で、最先端のサイコオンコロジーを多角的に学ぶ

【診療科としての人材育成のポイント】

当院精神腫瘍科は、1992年に我が国において初めてがん専門病院に設置された精神部門としてスタートしました。症例数が非常に多く、臨床経験豊富なスタッフが指導するため、症例数、内容ともに充実した研修を短期間で経験することが可能です。特にせん妄ハイリスク、AYA、小児、移植患者へは予防的介入をしており、希少ではあるもののニーズの高い領域の経験もしっかりと積むことができます。リラクゼーション教室や行動活性化外来、禁煙外来などの特殊外来も当科の特徴であり、これらは心理療法士と協働で行いますので、専門的な心理学的支援方法のスキルを獲得することができます。さらに、臨床研究も積極的に実践しており、学位取得を目指した研修が可能です。当科スタッフは精神科医と心療内科医で構成されているため、より多角的な視点で臨床・研究できる他にはない環境です。

がん対策推進計画にあるとおり、早期からの心のケアを含めた緩和ケアが必要とされる中で精神腫瘍科への要請は大きいです。充足しているというには程遠い現状があります。今後の本分野の発展のためにはAll Japan体制の構築が必須であり、それをリードする国立がん研究センター精神腫瘍科を目指しています。我々は今後この領域を一緒に担ってくれる仲間を強く求めています。精神腫瘍学を学びたい方は、まずはお気軽にお問い合わせください。個別見学も随時行っています。

研修の特色

●ここにしかない研修内容

せん妄ハイリスク、AYA、小児、移植患者への予防的介入、リラクゼーション教室や行動活性化外来、家族外来・禁煙外来などの特殊外来の充実、精神科医と心療内科医のコラボレーション、心理士とのコラボレーションによる心理療法の実践

●圧倒的な症例数

年間 2102 件 (入院+外来) の多種多様な症例



●緩和医療科の研修も可能

中央病院緩和医療科は勿論、近隣施設(国立がん研究センター東病院、がん研有明病院、聖路加国際病院など)での緩和医療の研修も可能

●臨床研究の充実

がん専門研修医や希望するレジデントは研究プロトコルの計画立案を行い、主体的に研究を実践し、論文を執筆、学位取得可能

●国際学会への参画

「みんなで世界を目指して」をモットーに、国際共同試験を含む臨床試験や国際学会にも積極的に参加しています(写真下左)。



様々なサポートプログラム

- ・患者サポートセンター(写真上左)での多職種連携による多様な患者家族サポートプログラムの実践
- ・行動活性化外来(写真上右)などで構造化された精神療法を経験
- ・AYA ひろば(写真上中央)やリラクゼーション教室などを運営

研修のメリット

当科の研修で下記の資格要件を達成可能です

- ・日本精神神経学会専門医
- ・日本総合病院精神医学会一般連携精神医学専門医
- ・日本心療内科学会 / 日本心身医学会 合同 心療内科専門医
- ・日本心身医学会心身医療専門医
- ・日本サイコオンコロジー学会 登録精神腫瘍医
- ・日本緩和医療学会緩和医療認定医・専門医

精神腫瘍学をリードするスタッフの直接指導

- ・精神腫瘍科スタッフ(松岡弘道、貞廣良一、山口順嗣、寺田立人、中原理佳、和田佐保、柳井優子、小川祐子、茅野綾子)による直接指導
- ・多施設合同 Web 症例検討会(全国がん専門病院と)、数多くの緩和ケアセミナー
- ・緩和ケアチームの一員として、緩和医療の専門家の指導も受けられる

研修後の進路

- ・国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科
- ・国立がん研究センター東病院緩和医療科
- ・国立がん研究センター研究所
- ・国立精神・神経医療研究センター精神科
- ・豊島病院精神科
- ・厚生中央病院精神科
- ・日本医科大学多摩永山病院 精神神経科
- ・JA長野厚生連 佐久医療センター 精神科
- ・伊那中央病院腫瘍内科

研修に関するお問い合わせ先

科長: 松岡 弘道

hiromima@ncc.go.jp

■プログラム

5 推奨するコース

●がん専門修練医コース

研修目的・内容	我が国の精神腫瘍学分野を牽引する人材育成を目的としています。レジデントコースで習得すべき精神腫瘍学に関する基本的な臨床技能に加え、臨床研究や全国的なプロジェクトにも参画し、より幅広い視点で現状の問題解決にあたることのできるエキスパートを養成します。臨床面では、レジデントコースで研修する内容の中でも特に複雑な精神的問題への対応(医療者への対応、関わり方が難しい患者への対応、集団力動に配慮した対応など)についての能力を養成します。研究面では、精神腫瘍学に関する臨床研究に参画することができ、新たな臨床研究の立ち上げや各種競争的資金の獲得の指導も行います。臨床・研修ともに、指導医が基礎から丁寧にサポートします。
研修期間・ローテーション	2年間: 精神腫瘍科での診療、臨床研究を中心に、全国プロジェクトへの参画や各種競争的資金獲得も目指し、エキスパートとなる研修を行います。緩和医療科での研修も調整により可能です。

5 副次的なコース

●専攻医コース(連携施設型)

研修目的・内容	精神科専門研修プログラムに則り、短期間の研修で、精神腫瘍学に関する診療経験を積むことを目標とします。
研修期間・ローテーション	原則3か月から6か月: 精神腫瘍科で研修を行います。6か月を超える研修を希望する場合は要相談。

●連携大学院コース

研修目的・内容	精神腫瘍学を中心とした研修を行い、専門医と学位取得を目指した研究に取り組むことを目的とします。
研修期間・ローテーション	1年目: 精神腫瘍科に6か月以上在籍し、診療、臨床研究、TR等を開始します。残りの期間は精神腫瘍科での継続研修、CCM勤務、希望者は他科研修を行います。並行して連携大学院に入学します。 2年目: 専門医取得のための研修(希望者は緩和医療科の研修や院外研修)と、連携大学院を継続します。 3-4年目: がん専門修練医に準ずる研修を行い、学位論文を作成します。※がん専門修練医への採用には再度試験を行います。

●レジデント短期コース

研修目的・内容	希望される研修期間で、精神腫瘍学に関するコアな診療技術に関する経験を積むことを目的とします。希望に応じて臨床研究や学会発表などを行うことができます。
研修期間・ローテーション	6か月~1年6か月(他科ローテーションも相談可)。 ※6か月を超える場合は病院の規定に基づきCCM(選択制)、1年を超える場合は緩和医療研修を行います。

●レジデント3年コース

研修目的・内容	関連科のローテーション研修を含め精神腫瘍学の専門家として必要な知識を習得します。研修期間中に、がん患者およびそのご家族のあらゆる精神的問題に対応できることを目的とします。精神腫瘍科ローテーション期間中は、主に身体科からコンサルテーションを受けた入院患者を中心に診療を行います。がん患者およびそのご家族のみならず、コンサルテーションを行った医療者の精神心理的ケアを含め、幅広い視点から精神的問題に対応できる能力を養成します。指導医ががん患者やそのご家族とのコミュニケーションから複雑な精神的問題への対応法に至るまで、個別に丁寧に指導を行います。
研修期間・ローテーション	1年目: 精神腫瘍科に6か月以上在籍し、残りの期間は緩和医療科での研修とCCM勤務を行います。 2年目: 精神腫瘍科に6か月以上在籍し、残りの期間は緩和医療科での研修を行います。他院での交流研修、その他の各科ローテーションも可能です。 3年目: 原則として6か月以上精神腫瘍科に在籍しますが、研修者のニーズにあわせた柔軟な研修が可能です。

●レジデント2年コース

研修目的・内容	関連科のローテーション研修を含め精神腫瘍学の専門家として必要な知識を習得します。研修期間中に、がん患者およびそのご家族のあらゆる精神的問題に対応できることを目的とします。精神腫瘍科ローテーション期間中は、主に身体科からコンサルテーションを受けた入院患者を中心に診療を行います。がん患者およびそのご家族のみならず、コンサルテーションを行った医療者の精神心理的ケアを含め、幅広い視点から精神的問題に対応できる能力を養成します。指導医ががん患者やそのご家族とのコミュニケーションから複雑な精神的問題への対応法に至るまで、個別に丁寧に指導を行います。
研修期間・ローテーション	1年目: 精神腫瘍科に6か月以上在籍し、残りの期間は緩和医療科での研修とCCM勤務を行います。 2年目: 精神腫瘍科に6か月以上在籍し、残りの期間は緩和医療科での研修を行います。他院での交流研修、その他の各科ローテーションも可能です。